

ほぐし合った心の疲れ

夏井公民館でこころの健康教室を開催

夏井公民館の「こころの健康とコミュニケーション教室」は2月6日、同館で開催。55人が参加し、心を健康に保つ秘訣を学びました。講演で「うつ」の対処法などを学んだ後は、よりよいコミュニケーションの取り方にチャレンジ。グループに分かれて悩みを打ち明け合うなど、参加者は皆、楽しそうに心の疲れをほぐしていました。



「ゲーパー。ゲーパー」体操でまずは心と体をリラックス

近所に住む友人と3人で参加した小原生さん（夏井町）は「年を取ったら人の話を聞くことが大事だと知った。うちに居るよりずっといい。心がスッキリした」と晴れやかな笑顔を上げていました。



思わず立ち止まる見事な作品がずらり



作る楽しみを実感した子ども創作体験ルーム



人と人をつなげる「こころ」の大切さを訴えた落合恵子さんの記念講演



各分野で活躍した個人・団体をたたえた表彰式。89人、13団体が受賞の喜びをかみしめました

市民の力でまちづくりを

市民大会・生涯学習のつどいを開催

市民大会と市民生涯学習のつどい（市など主催）は2月14日と15日、アンバーホールで開かれました。生涯学習に励んだ42人と交通安全、防犯、環境の各分野で活躍した47人、13団体を山内隆文市長らが表彰。環境衛生功労者として表彰された西野和志美さん（田屋町）が受賞者を代表して喜びと今後の意欲を述べました。

表彰式後の大会決議では、本年度の「わたしの主張久慈地区大会」で最優秀賞を受賞した大石里美さん（山根中1年）が「心豊かな生活ができるよう、全市民力を合わせて防犯や環境保全などに取り組む」と声高らかに決議文を読み上げ、会場の約850人は大きな拍手で大会決議を承認し、住みよいまちづくりに向けて気持ちを一つにしました。

期間中は約700点の作品展示やステージ発表なども実施。両日、多くの来場者でにぎわいました。

広報リポーターが まちの話題を紹介します！

笑い語らい 元気に新年



多くの人でにぎわった新年交歓会

夏井町新年交歓会は2月8日、夏井公民館で開催。晴れやかな衣装を身にまとった約130人が参加しました。今年の抱負や近況を語り合う参加者は皆にこやかな表情。最後まで会場には元気な笑い声が響いていました。（生平隆リポーター）

地域の課題 講話で探る



大川目の「元気」のために大勢が参加

大川目町まちづくり協議会は2月21日、地域課題懇談会を開催しました。講師の河野和義氏（陸前高田市）が「食農教育とまちづくり」と題して講話。参加者に伝統の食品作りやまちの活性化策など熱弁を振りました。（小倉利之リポーター）

ストーン投げて表情生き生き

市民ユニカール大会を開催



「いげー！」投げたストーンに視線が集中

市民ユニカール大会（市教育委員会主催）は1月25日、市民体育館で開かれました。ユニカールは2チーム交互にストーンを投げ、円の中心にどちらのストーンを近づけられるかを競う頭脳派スポーツ。小学生と高齢者の「ふれあいの部」、中学生以上の「一般の部」の2部門で熱戦が展開されました。約200人の参加者は「行け！」「止まれー！」とストーンを誘導するように声を出して楽しんでいました。

小学生とも対戦した柳杭田チエさん（湊町）は「負けてあげたくなるほど子どもはかわいい。試合で元気をもらった。練習してまた参加したい」と、生き生きとした表情を見せていました。

各部門の優勝チームは次のとおり。▽ふれあい＝小久慈プレイヤーズメジャー▽一般＝小久慈体協

ヒントがいっぱい！ 観光学ぶ

おもてなしセミナーを開催

接客や効果的な情報の発信方法などを学ぶ、おもてなしセミナー（久慈広域観光協議会主催）は2月12日、やませ土風館で開催。久慈管内の観光施設の従事者や観光ガイドの会「チームけさった」の会員ら約50人が参加しました。

セミナーの講師は2人。山形新幹線の車内販売員の茂木久美子さんは「人間だからできることを大切に」と方言や会話を大切にされた接客方法を熱弁。八戸せんべい汁研究所の木村聡事務局長は「情報は味付けが大事。おもしろいほど効果的に広まる」とせんべい汁を全国に広めた仕組みなどを説明しました。

経験豊富な講師の話に参加者は真剣な表情。仕事やガイドに生かそうと懸命に学んでいました。



講師の茂木さん（右）が実践する接客術から「おもてなしの心」を学ぶ参加者

心に響いた地域の力

山根若者の会が演劇「梔子の歌」を上演



切なく心に響くラストシーン。観客は迫真の演技を息を飲んで見つめました

山根若者の会（伊藤秀一会長）は2月14日、アンバーホールで演劇「梔子の歌」を上演。地域の力を合わせた演劇で200人以上の心を震わせました。

藩政時代の山根村を舞台にした「梔子の歌」は、病に倒れた娘のために命を懸けて奔走する父と支え合って生きる村人の姿を描いたもの。方言いっぱい、のせりふと迫真の演技で家族や人の大切さを訴えた演劇に、観客は惜しめない拍手を送りました。

主役の娘の父役を見事に演じきった鈴間智和さん（山根町）は「限られた時間の中で練習を積んできた。新しく加わったメンバーとも力を合わせ、今後も演劇を続けていきたい」と充実した表情を浮かべていました。

広報リポーターを引き続き募集します。詳しくは、まちづくり振興課（☎52-2116）へ。ご連絡お待ちしています。